

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果（概要版）

調査の概要

1 調査の目的

磐田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

一般高齢者：要介護認定を受けていない65歳以上の方

事業対象者：総合事業の対象者

要支援認定者：介護保険要支援認定を受けている方

要介護認定者：介護保険要介護認定を受けている方

3 調査期間

令和7年12月16日～令和8年1月13日

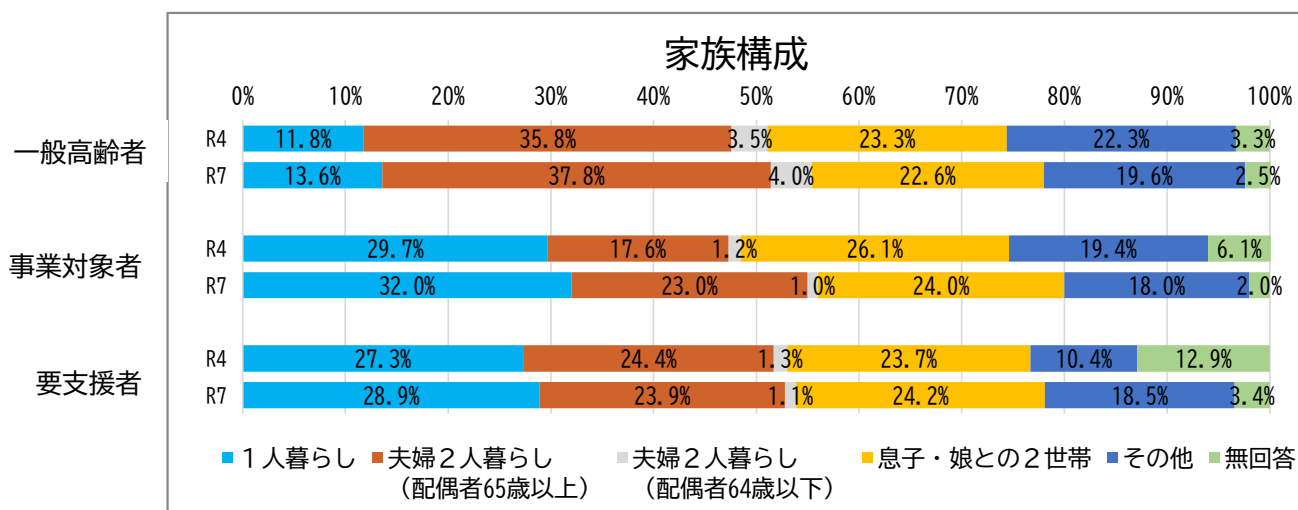
4 回答状況（速報値）

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般高齢者	2,000通	1,406通	70.3%
事業対象者	137通	100通	73.0%
要支援認定者	1,000通	707通	70.7%
要介護認定者	1,500通	875通	58.3%

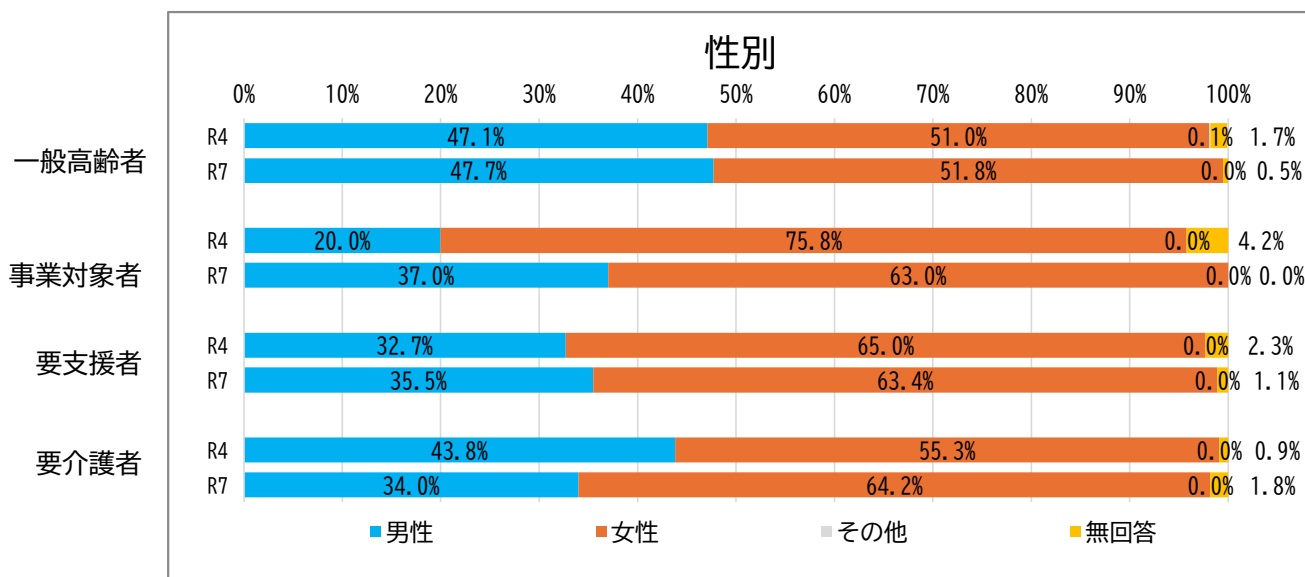
調査結果の分析（抜粋）

回答者属性

設問	回答
家族構成をお教えてください。	1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 4. 息子・娘との2世帯 5. その他

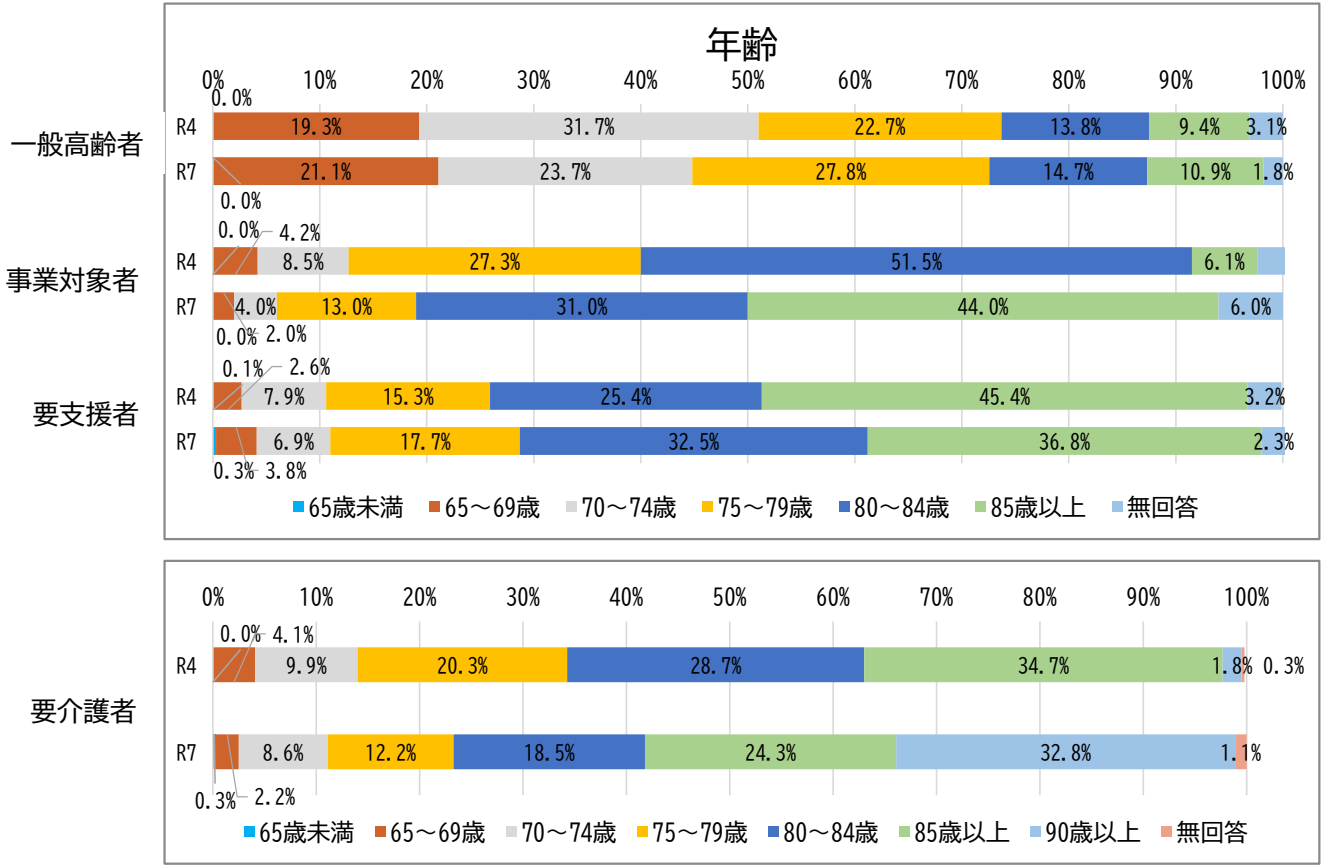


設問	回答
あなたの性別を教えてください。	1. 男性 2. 女性 3. その他

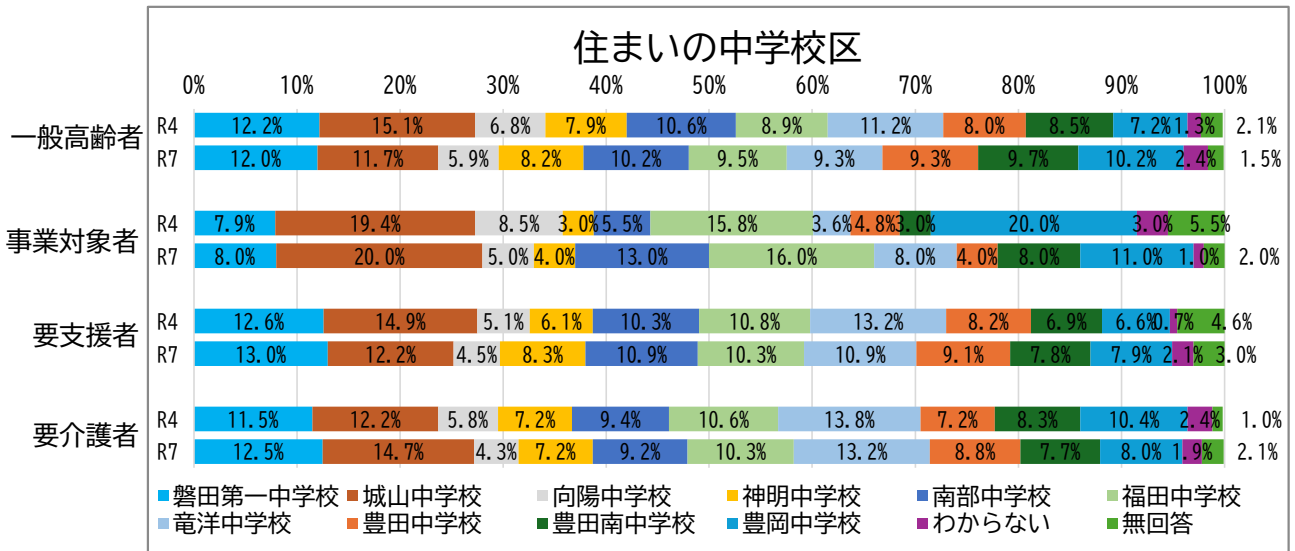


設問

あなたの年齢（令和7年10月1日現在）を教えてください。（数字を記入）

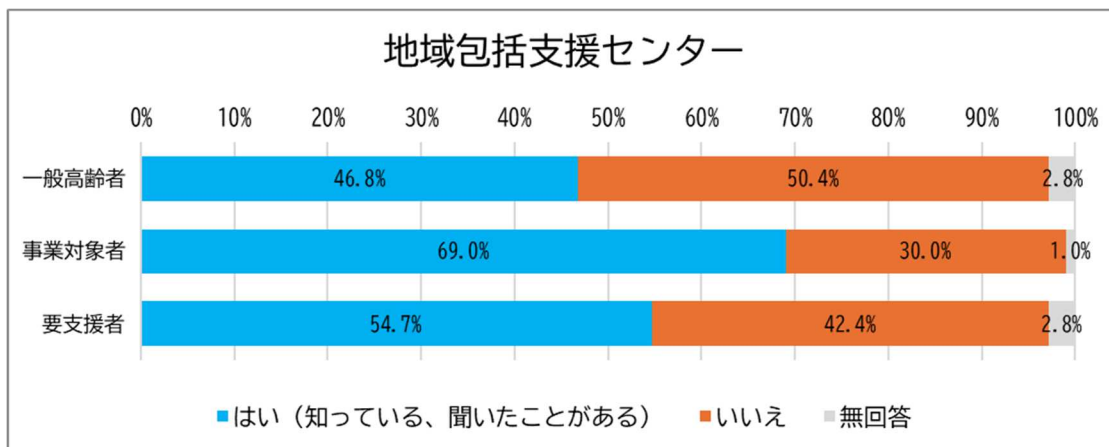


設問	回答
あなたが現在お住まいの中学校区を教えてください。	1. 磐田第一中学校 2. 城山中学校 3. 向陽中学校 4. 神明中学校 5. 南部中学校 6. 福田中学校 7. 竜洋中学校 8. 豊田中学校 9. 豊田南中学校 10. 豊岡中学校 11. わからない



地域包括支援センターの認知度について

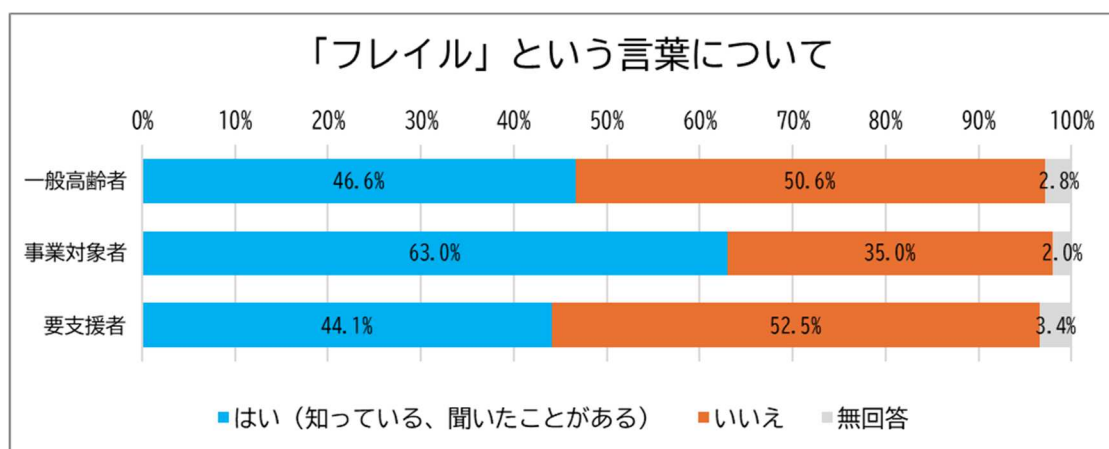
設問	回答
地域包括支援センターが転倒予防や栄養指導といった介護予防の取り組みをしていることを知っていますか。	1. はい（知っている、聞いたことがある） 2. いいえ



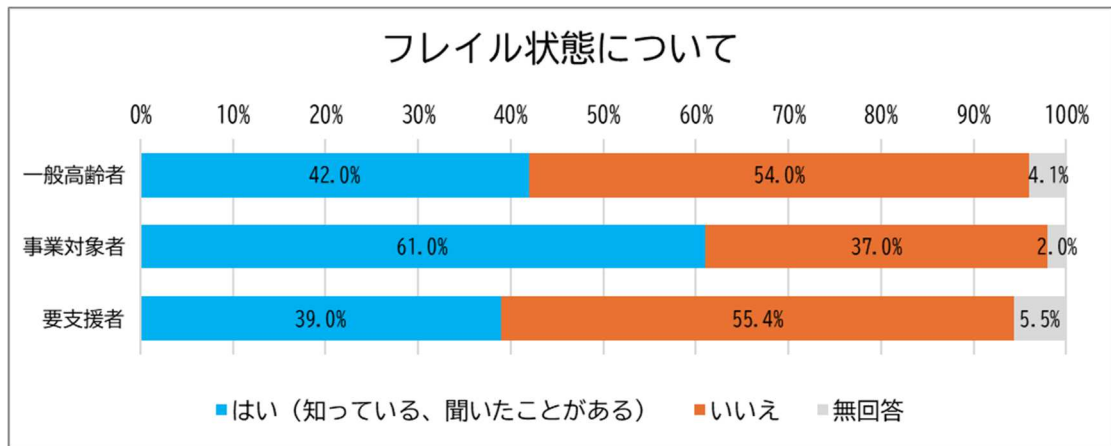
- ・総合事業対象者では「はい（知っている、聞いたことがある）」69.0%と他に比べ割合が高くなっています。

フレイルの認知度について

設問	回答
「フレイル」という言葉を知っていますか。	1. はい（知っている、聞いたことがある） 2. いいえ



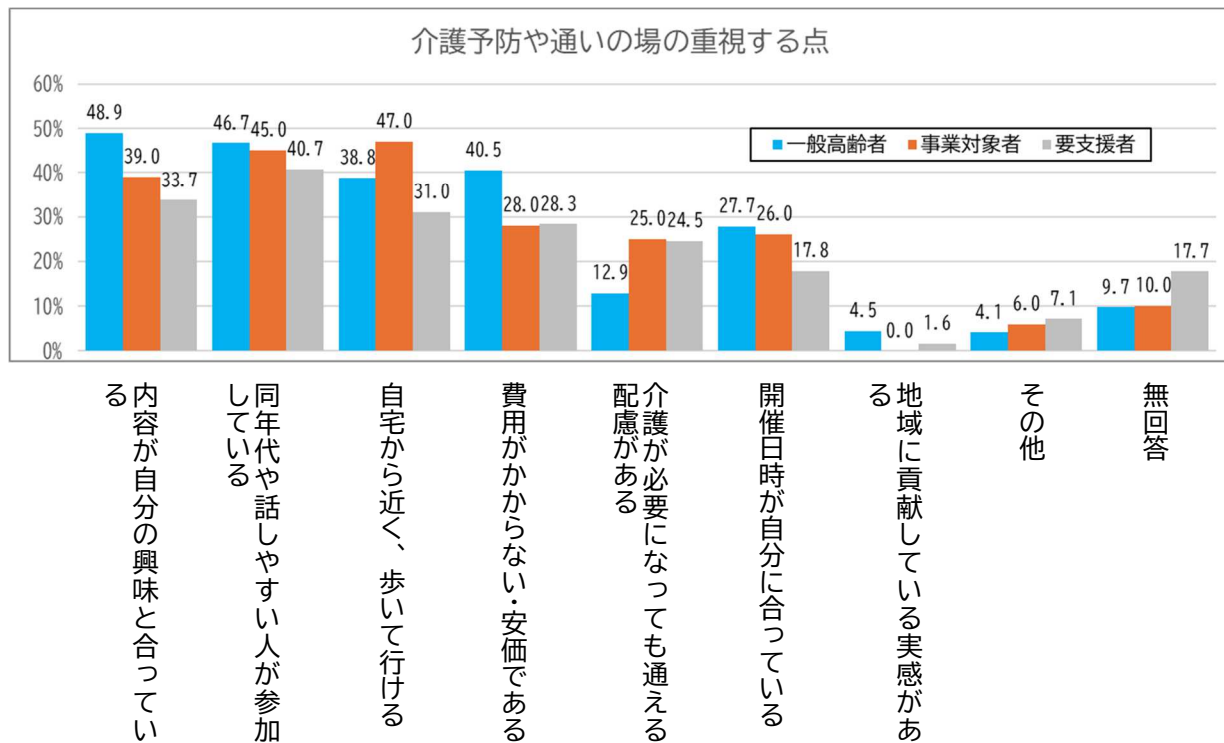
設問	回答
フレイル状態は、早めの対策で以前の状態に回復できることを知っていますか。	1. はい（知っている、聞いたことがある） 2. いいえ



- ・総合事業対象者ではフレイルを知っている割合が半数を超えて高くなっています。

介護予防や通いの場について

設問
介護予防や通いの場に参加する際、どのような点を重視しますか。(3つまで)

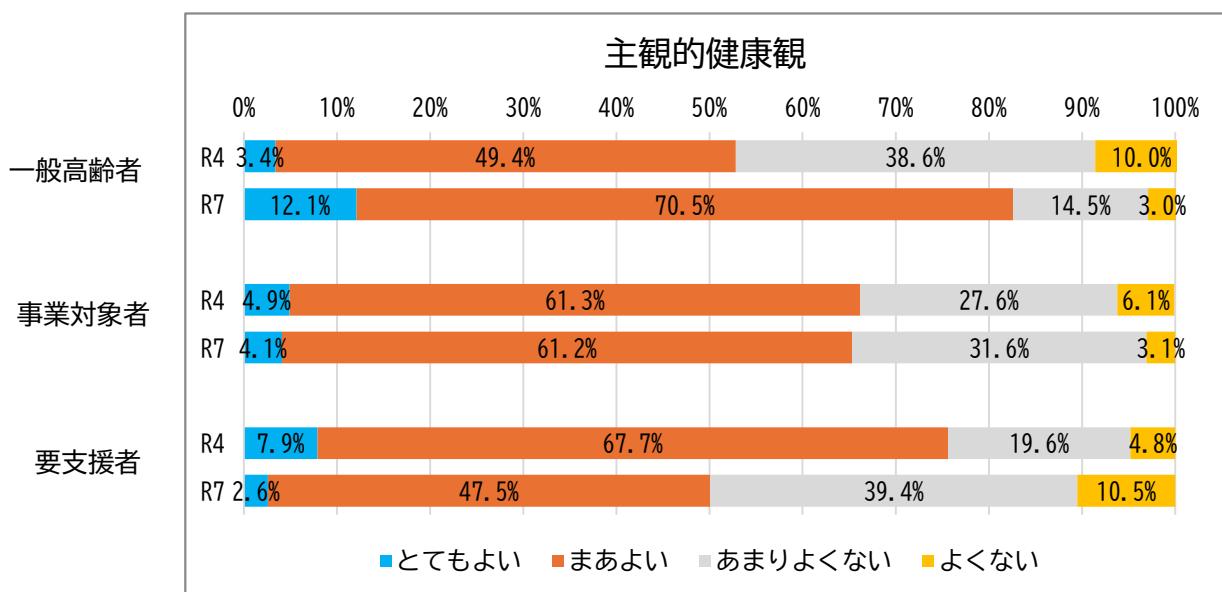


- ・一般高齢者では、「内容が自分の興味と合っている」の割合が48.9%、総合事業対象者では「自宅から近く、歩いて行ける」の割合が47.0%、要支援認定者では「同年代や話しやすい人が参加している」の割合が40.7%とそれぞれ最も高くなっています。

主観的健康観・主観的幸福度について

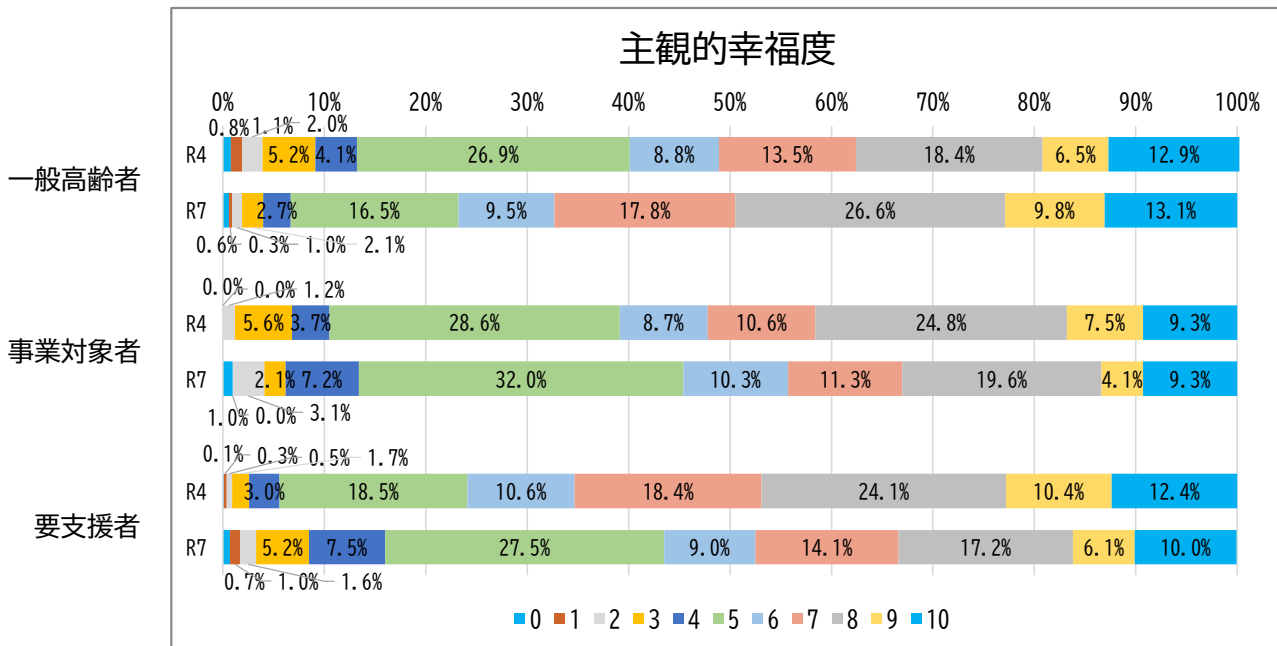
「一般高齢者」「事業対象者」「要支援者」の回答のうち以下の項目について前回調査（令和4年2月実施）と比較しました。

設問	回答
健康状態はいかがですか	1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない



- ・一般高齢者は「とてもよい」「まあよい」の割合が他に比べ高くなっています。全ての対象で「とてもよい」「まあよい」の割合が半数を超えています。

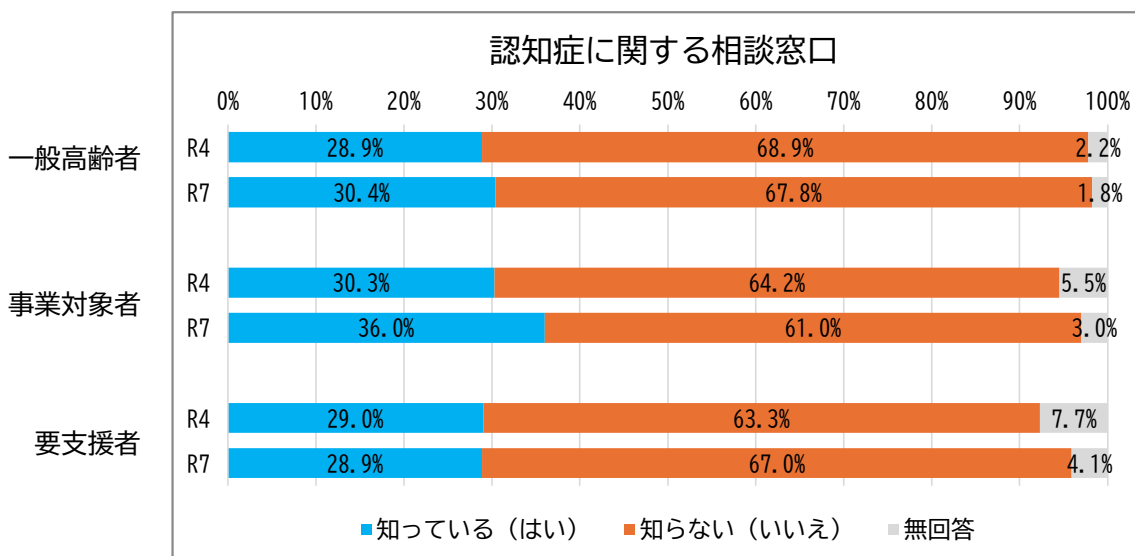
設問	回答
どの程度幸せですか	「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点)



・総合事業対象者、要支援者では前回より今回の「10・9・8点」の割合が減少しています。

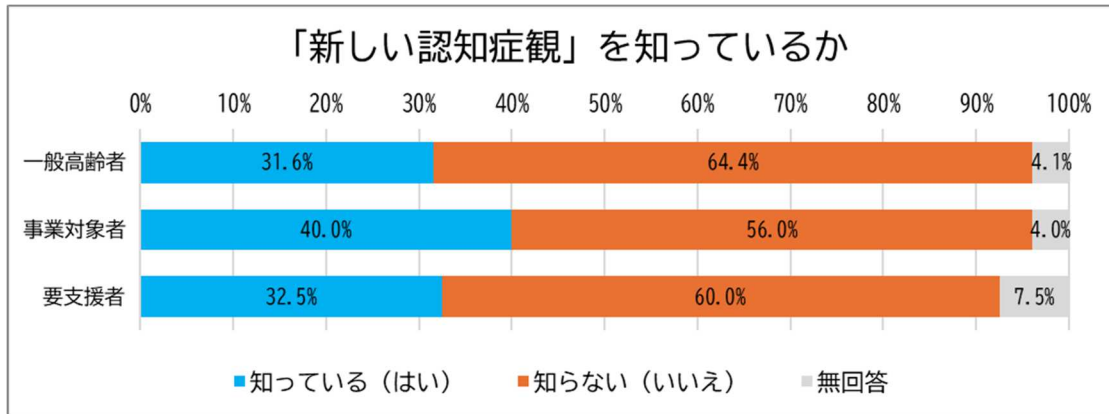
認知症について

設問	回答
認知症に関する相談窓口を知っていますか。	1. はい 2. いいえ



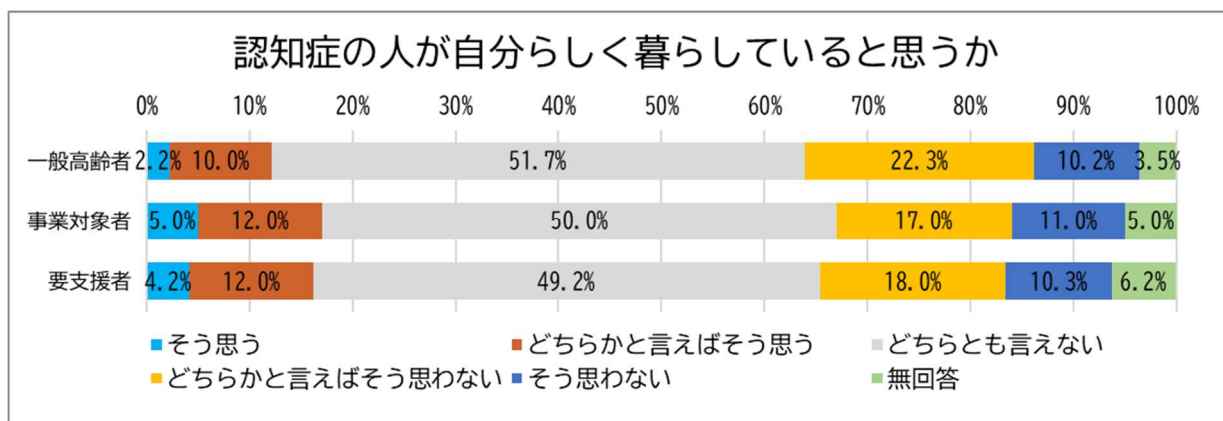
・一般高齢者、総合事業対象者は「知っている (はい)」の割合が高くなっています。

設問	回答
令和6年に施行された認知症基本法（共生社会の実現を推進するための認知症基本法）で、「新しい認知症観」について示されています。「新しい認知症観」を知っていますか。	1. はい 2. いいえ



- ・総合事業対象者では「はい（知っている、聞いたことがある）」40.0%と他に比べ割合が高くなっています。

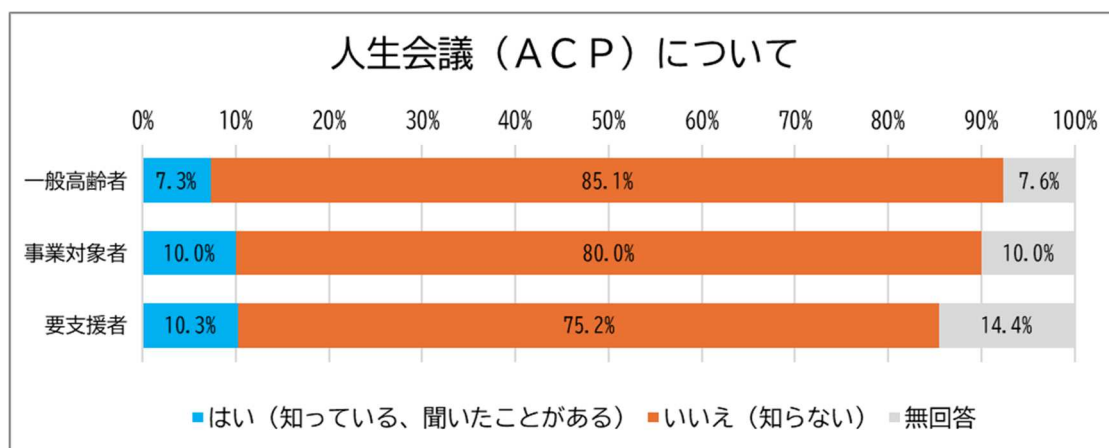
設問	回答
あなたは、今の社会で認知症の人が自分らしく暮らしていると思いますか。	1. そう思う 2. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない 4. どちらかと言えばそう思わない 5. そう思わない



- ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が総合事業対象者では17.0%と高く、一般高齢者では12.2%と低くなっています。

人生会議（ACP）の認知度について

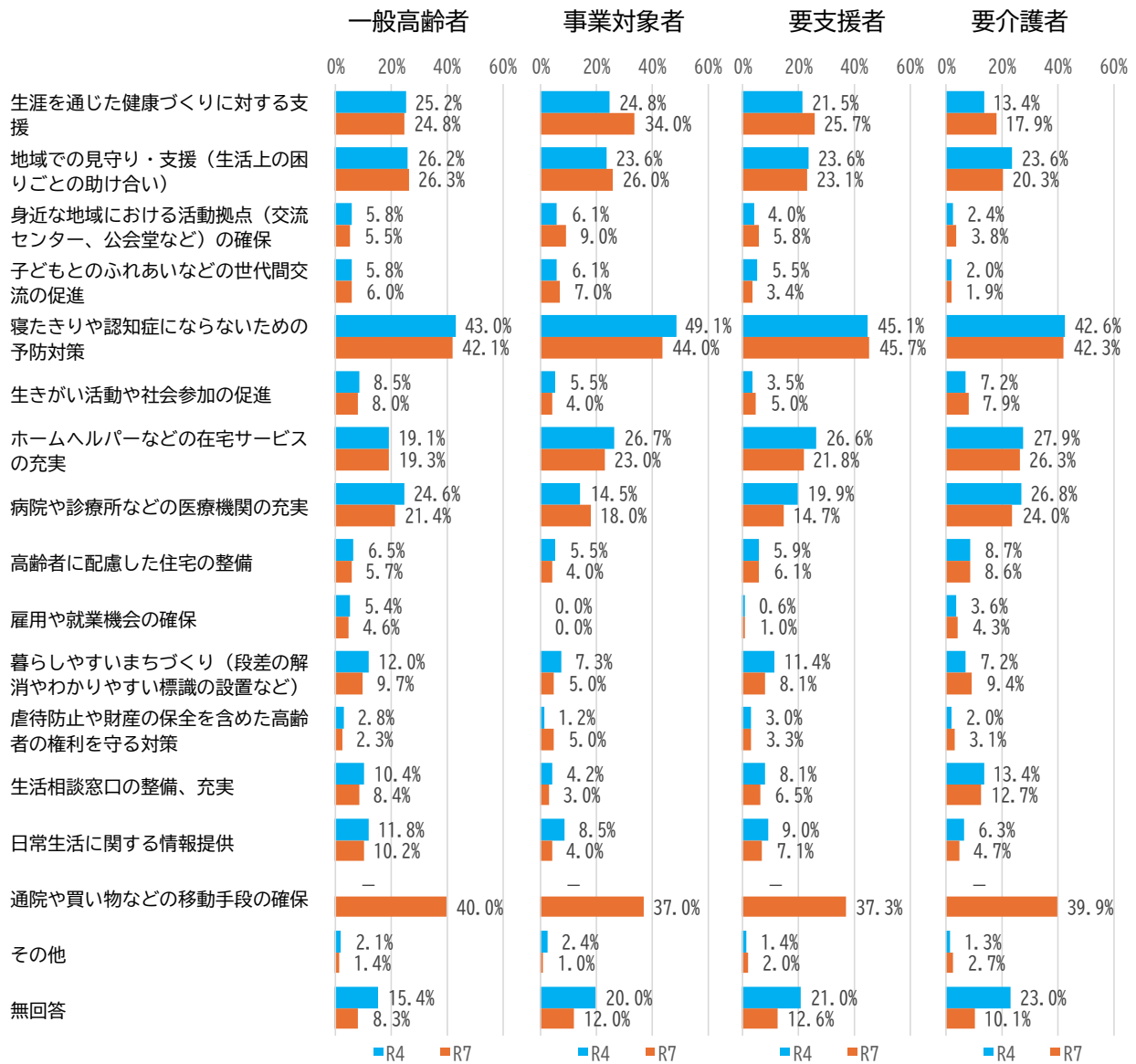
設問	回答
病気やけがをしたときに、どのような治療や生活をしたか、ご家族や医療・介護従事者と話を行うことを、「人生会議」（ACP）と呼ぶと知っていましたか。	1. はい（知っている、聞いたことがある） 2. いいえ



- ・「はい（知っている、聞いたことがある）」の割合が、総合事業対象者では10.0%、要支援認定者では10.3%に対し、一般高齢者では7.3%と低くなっています。

より良い地域にするための重要な施策について

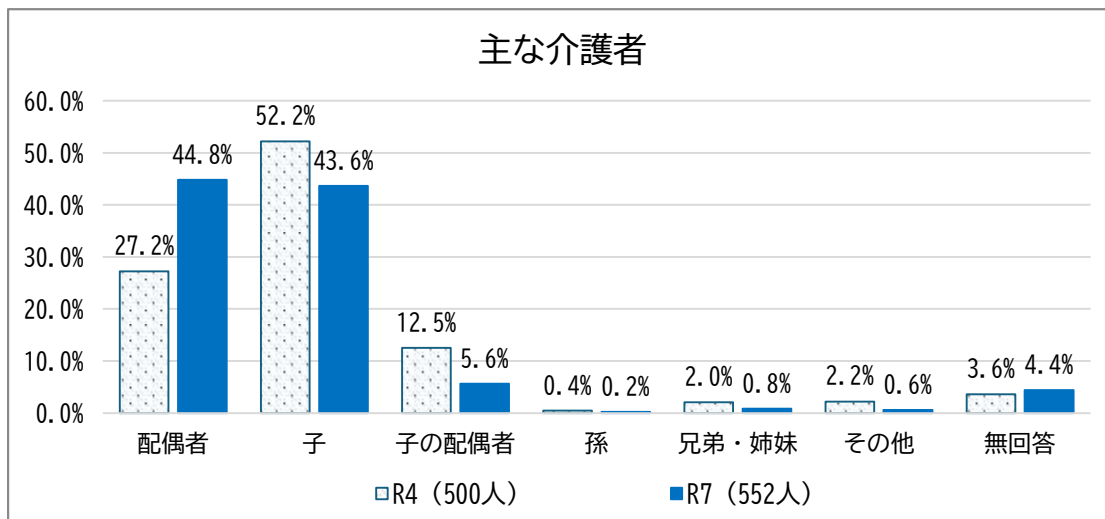
設問
 今後も地域で暮らし続けるためには、どのような施策が重要だと思いますか。（3つまで）



- ・「病院や診療所などの医療機関の充実」が一般高齢者では3.2ポイント、要支援認定者では5.2ポイント減少しています。「生涯を通じた健康づくりに対する支援」が総合事業対象者では9.2ポイント、要介護認定者では4.5ポイント増加しています。

要介護認定者の在宅生活について

設問
主な介護者は誰ですか

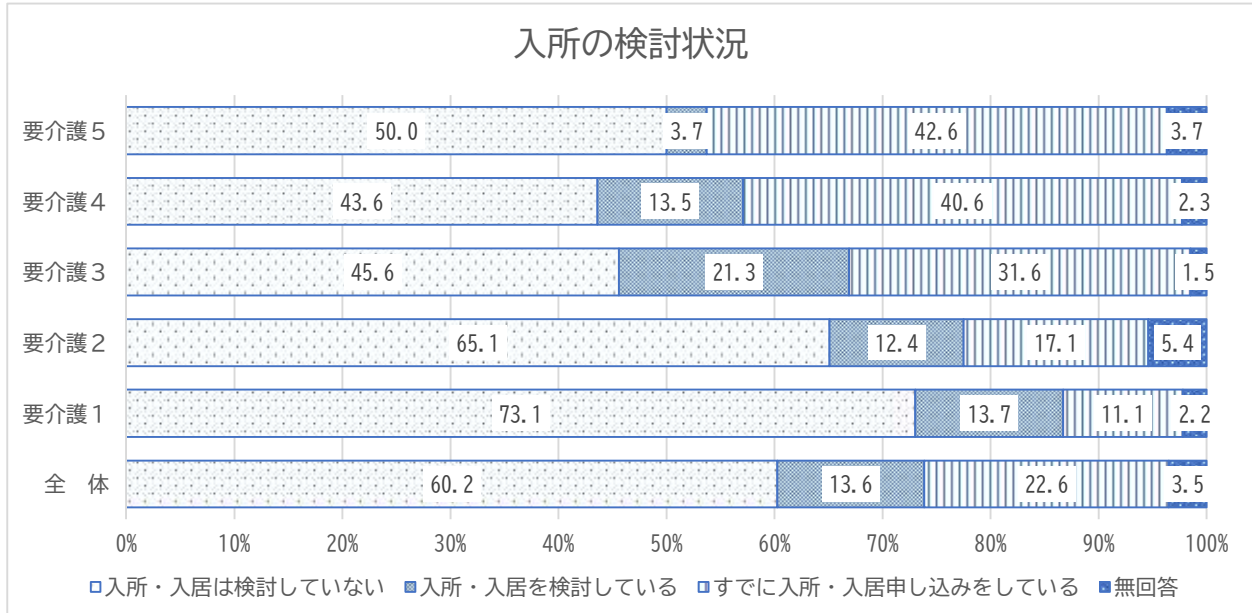


- ・主な介護者は配偶者や子が担っており、前年度から配偶者が 17.6 ポイント増加し、子が 8.6 ポイント減少しています。

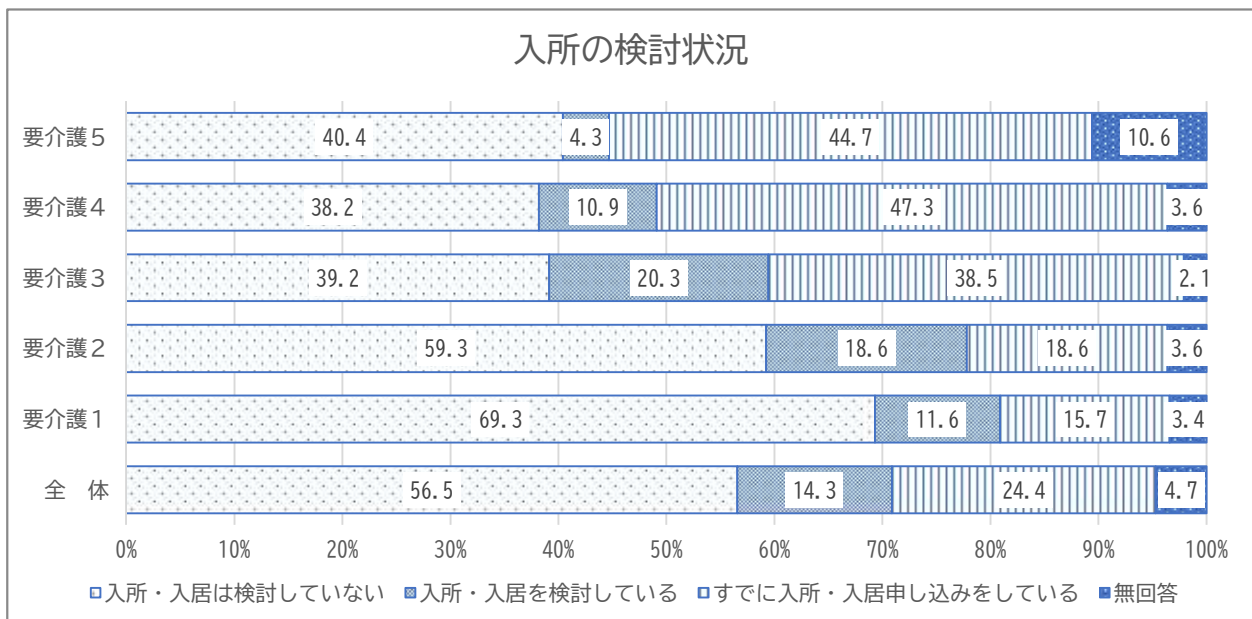
設問

施設等への入所・入居の検討状況について

【R7】



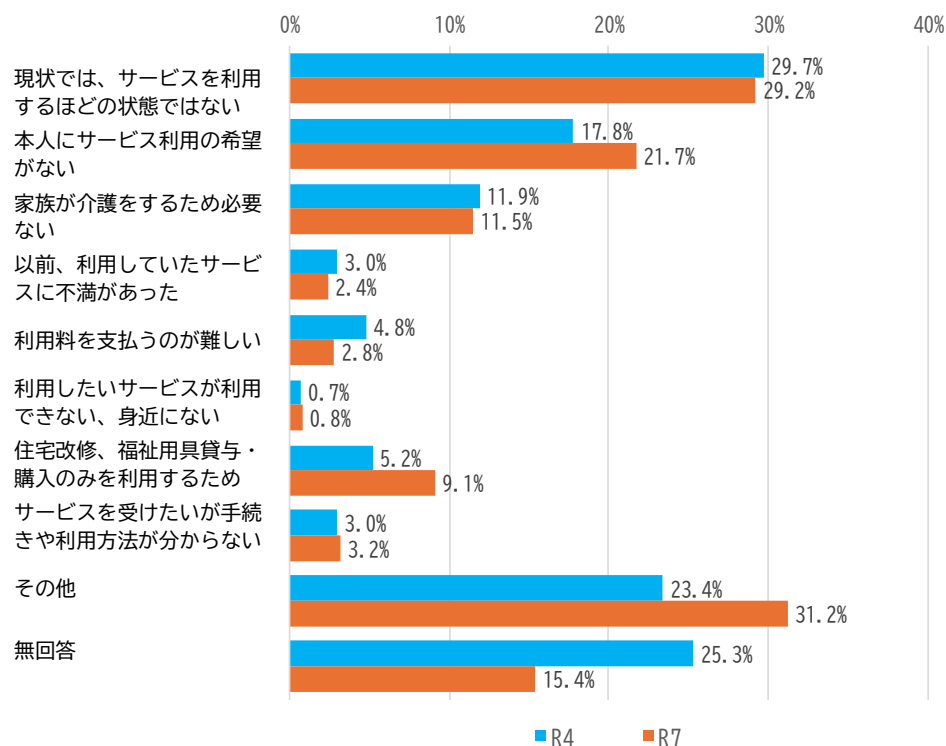
【R4】



・要介護3・4では「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が「入所・入居を検討していない」を上回っています。

設問

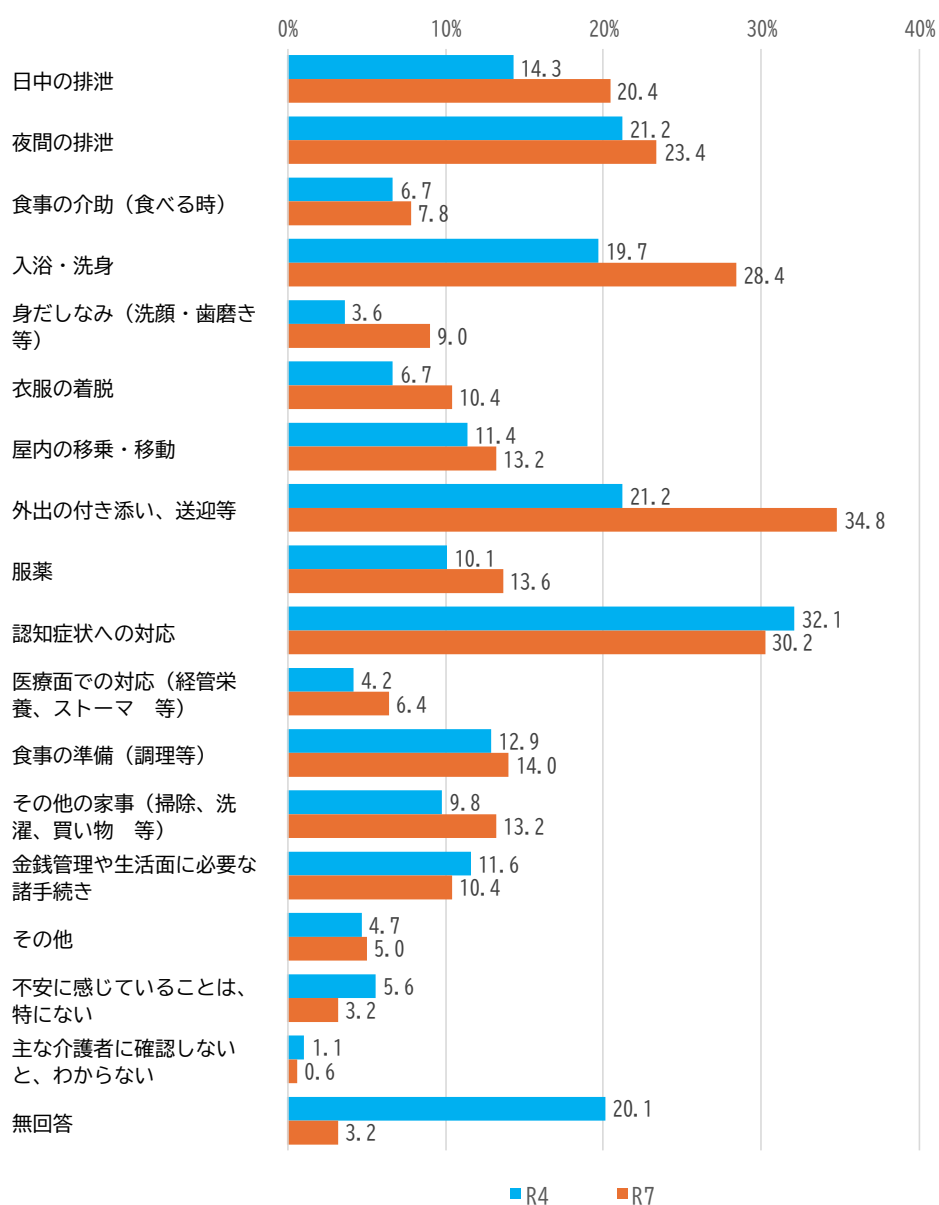
介護保険サービスを利用していない理由（複数選択可）



- ・介護サービスを利用していない人の理由は「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が29.2%で最も高くなっています。また、前年度から「本人にサービス利用の希望がない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」がそれぞれ3.9ポイント増加しています。

設問

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答可）



- ・「外出の付き添い、送迎等」が 34.8% で最も高く、「認知症状への対応」「入浴・洗身」「夜間の排泄」の順に割合が高くなっています。